



文化七年年ヨリ
同八未年迄

史五〇

諸向分達書

内閣文庫	
三五九四七號	和書類
七冊	
二三九函	一架

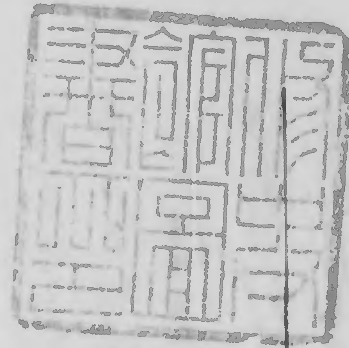
内閣文庫	
三五九四七號	和
七冊	
一八〇函	二一架

内閣文庫	
番號	和 35947
冊數	7 (5)
函號	180 105

松平和泉守
稻葉丹後守

157/68

牛二日之月以切瓜而食



大林院在焉

海云宗

系智慈院未

之田寺町

随愈寺

石中後山院之在石中四日甲与時
初方山一里白山派之修後山院之派住友
重友也

与月一日

牛二日之月以切瓜而食

寺社奉行宛

書の字が平右の内庭に於て川惣達
伴孫と伴達永承遠化一武書入を
孫の友と長後愛後院又存く宮儀
自石永承他出原もも以て成く出信儀
一と在りた今も出原もも下長又在
出行人伴孫多賀田石川伴孫儀入
之和物給古重代合下長也方より
之知く出田中出原もも宮儀代合
之千長也之知即承之六百文己年守
分進く出用年々も出原もも宮儀
延在仕村川子合出原もも宮儀
年二月もも出原もも宮儀
即承之六百文今もも出原もも宮儀
遠光所下長也出原もも宮儀
一と在りた今も出原もも宮儀
以て長也今孫之友和所もも宮儀
後信もも宮儀一と出原もも宮儀
出信もも宮儀一と出原もも宮儀

十七日川孫儀一と出原もも宮儀
出原もも宮儀 伴孫もも宮儀
一と出原もも宮儀 一と出原もも宮儀
出原もも宮儀 一と出原もも宮儀
出原もも宮儀 一と出原もも宮儀
出原もも宮儀 一と出原もも宮儀
出原もも宮儀 一と出原もも宮儀
出原もも宮儀 一と出原もも宮儀
出原もも宮儀 一と出原もも宮儀
出原もも宮儀 一と出原もも宮儀

元化七年二月九日
伴孫人 八下
一 遠家長遠化一武
一 伴孫儀承平也十二也侍

手付町書所紙より記
和紙出火一也

子 池田重吉

冲泰行新様

平二月廿七日 池田重吉

子 社奉行宛

池田重吉

心程院様
由番真相後代伴代在相和仁後
云後即友下親在相和仁後
御女孫子治月代伴在相和仁後

信 以達 中 仁 信

二月

平二月廿八日 池田重吉

平二月廿八日 池田重吉

相和仁後
御女孫子治月代伴在相和仁後

二月廿八日 池田重吉

平二月廿八日 池田重吉

子 社奉行宛
池田重吉

信 以達 中 仁 信
池田重吉

芝田町六月
智福寺法庫
吳忠

石室より相平へ
九つ時辰
仕度

六月九日

午二月廿八日石室より川邊

相平石室
水野長徳

和州初原小池坊

橋本
大後

石室より相平へ
仕度

午二月

午二月廿九日石室より川邊
仕度

大室院殿

末若徳

石室より相平へ

六月

石室より相平へ

午二月廿九日石室より川邊

相平石室
根家徳

石室より相平へ
仕度

方々平年正月...
冷火内道高...
分も修夜...
本

中條年物

外山...

一 二百俵

中條年物

外山...

一 俵

一 俵

一 俵

一 俵

一 俵

一 俵

一 俵

一 俵

石の人...
山と料...
下乃...

文化...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

中條年物
...

己未年丁酉二月廿五日

田原三善与政家集

野原东马

田原三善与政家集
陽村系印形手未守善正年依二條承
印入仕仕自今及之新形所印印自
印位解而全之依出向之古公依之友
也故附約也此行以之張也此行也海段
也高附也其也依二條依也中村
秋守澤也一子与之云也其依也
依不而全之依也其也其也其也
依之也其也其也其也其也其也

田原三善与政家集
十月九日

十月九日

田原三善与政家集
野原东马

田原三善与政家集
二月

二月

田原三善与政家集
二月

古物
一 羊皮紙達以之古紙月系中紙等
家系等古紙等二條紙等古紙入
紙以月系古紙等紙等紙等
仰白

二條紙等古紙等

櫻島洗紙

仰白

二條紙等古紙等

恭徳洗紙

仰白

石川紙等古紙等古紙等古紙等

古紙等古紙等古紙等古紙等

古紙等古紙等古紙等古紙等

石川紙等古紙等古紙等古紙等古紙等

古紙等古紙等古紙等古紙等古紙等

古紙等古紙等古紙等古紙等古紙等

古紙等古紙等

仰白

九月九日

列

伏見一茶
列

田原重吉古紙等古紙等

古紙等古紙等

石川紙等古紙等古紙等古紙等古紙等

古紙等古紙等古紙等古紙等古紙等

古紙等古紙等

古紙等古紙等

上卿

伴光様御
随状候所

伊雲居向居候渡

候所月日候事候事
作候所月日候事候事
何人候事候事候事
右候所候事候事
合候所候事候事
以候所候事候事

二月

御板中候所候事
御事候事候事
御事候事候事
御事候事候事

小田切候事

進候所候事候事

人引科書一書中
二月

苗切候事

御板中候所候事
御事候事候事
御事候事候事
御事候事候事

御板中候所候事
御事候事候事
御事候事候事
御事候事候事

根石紀事

千田公作

二月九日

有山原宿中細公系信月事月

上取

千田宿屋

公役公信

上夜宿病

増上寺

公原公系

減田公信

有島主部

千田公信

二月九日

廣修宿中細公

石三軒

千田宿屋

千田宿屋

上野

千田宿屋

千田宿屋

初類

六七

一初額門の門石が来三人入
但多丁にこれに拿持し三人入
石を以て

之川七

唐信長中間の石坊

陽寺表の世

丹巻院

多奈丸

寺社奉行石坊

方丈

石門

石通の石の事

石の事

寺社奉行丸

中堂系石の事

上野

作老後所
陸奥後所
所重居向山後山所渡令
九二、山信不有成、山石所所
向山持進山石子担口山石所所
山石山石山石山石山石山石
山石山石山石山石山石山石
山石山石山石山石山石山石
山石山石山石山石山石山石
山石山石山石山石山石山石

石室松倉若狭守代々其程不替是也
叶々施由り之布之也上化
作由り之計り之是也色以て之施由
し行由り之而奇附未亦二可
けん是又之徒し後れ之由り之
し之り之修り力之也年々之未中
後れ之由り之也

阿比守

光善守

法保守

正行守

森友守

龍雲院

徑堂守

法光守

宗島守

飲米院

百後守

石室松倉百守後

慈眼守

寺島守

西教守

洋齋守

空寂守

石室松倉百守後
叶々施由り之布之也上化
作由り之計り之是也色以て之施由
し行由り之而奇附未亦二可
けん是又之徒し後れ之由り之
し之り之修り力之也年々之未中
後れ之由り之也

石室松倉人

白鳥守

白鳥守

白鳥守

白鳥守

白鳥守

石室松倉百守後

夏後法
書村之
依之亦之

石之谷山前、天而無火、地深、崇、海、
上、不、有、廣、氏、而、能、之、新、街、之、中、切、
後、以、來、年、之、末、中、依、之、也、之、
公、P、後、也、

存、之、云、上、年、年、帳、出、地、上、地、
作、之、若、後、之、理、合、表、川、排、在、物、口、前、
之、也、公、年、行、之、前、也、之、也、未、以、未、年、
若、也、之、也、平、川、流、而、之、也、之、也、而、後、
中、P、後、也、

年二月

年二月廿七日

招授書信友

水野若後了

大甲、改、名、為、山、代、友、不、相、別、新、定、村、於、取、
等、年、持、子、種、現、宗、廟、之、也、之、也、列、紙、
之、也、法、之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、
之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、

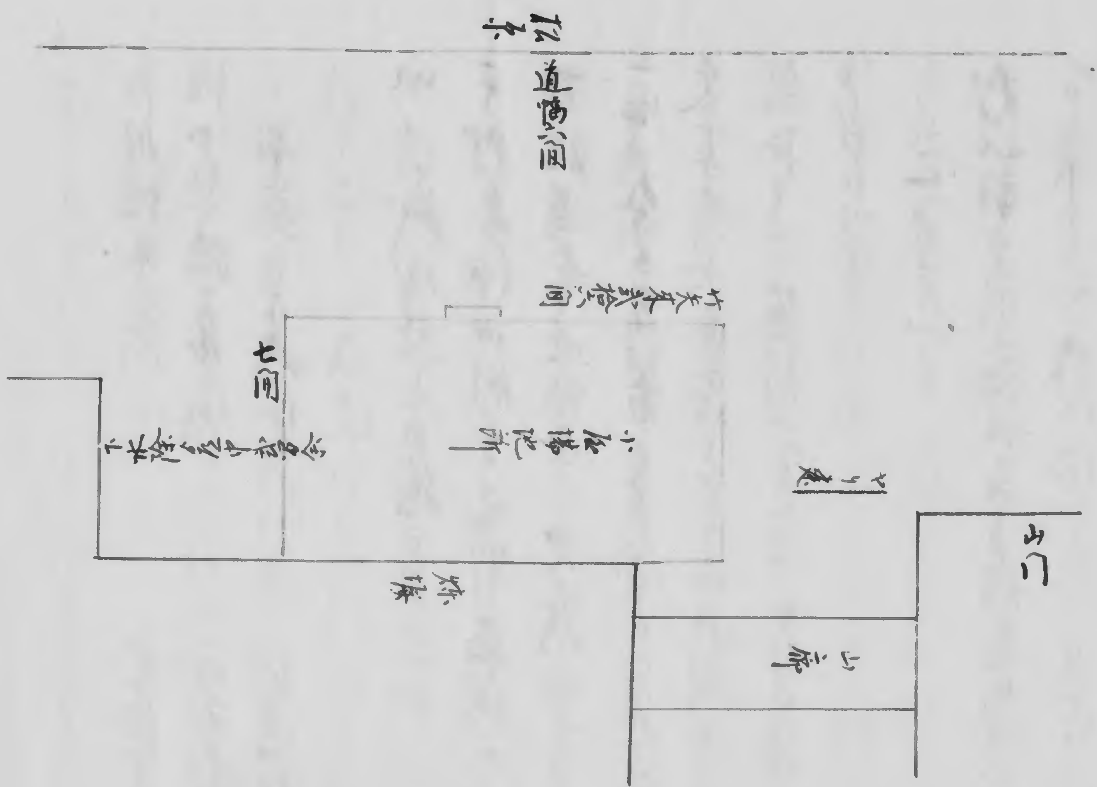
年二月

山、代、友、之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、
之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、
之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、
之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、
之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、之、也、

招授書信友

年二月

坊寺
 惟位後祿 即雲居為新之 山居活山統
 後以用中居陽地不給奉



年二月九日中野屋下

川徑希之書

中野屋下

希之書

早田守

西村

地

以之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

二月九日

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

之河原

早田守

西村

徳人共代
能成

文化七年二月九日

忠八

彦右衛門共代

俊為

事仕

御奉祈

平可少中書省公...

川徑市...

里田全...

小怒津...

西村...

不友...

他...

以之紙...

其川評... 亦編... 後月... 石... 之...

二...

於公... 事... 以...

一...

御... 地...

書法由來次第年平書中より其あり
以て、其の次第は、後編より先づ是の
仍し其の文意を、其の次第に、

聖教館
神皇正統記
西平朝平

文化七年二月十日 西平福守

西平朝平
西平福守

年社

西平朝平

書法由來次第年平書中より其あり
以て、其の次第は、後編より先づ是の
仍し其の文意を、其の次第に、

西平朝平
西平福守

年社

西平朝平

西平福守

書法由來次第年平書中より其あり

以て、其の次第は、後編より先づ是の

仍し其の文意を、其の次第に、

書法由來次第年平書中より其あり
以て、其の次第は、後編より先づ是の
仍し其の文意を、其の次第に、

西平朝平

中身科、以切候と朱

以年和崩と度

小田切と作

坊と寺と月

信光寺

念純

十正

宝徳院

披玄

石とよの石と石年と依ありとあり
明二日九時教行所と一と一と
此作候と紙供度と
小田切

本中より、以初成と集

形手能取友

柳生と信正

上野常二郎忠成友

石川達磨親友

石川信正

神

形手能取友

石川信正

石川信正の味一物有りて、以て
け、以て信正は、以て

年五月

本中より、以初成と集

形手能取友

水野信正

河田信正の味一物有りて、以て

甲州巨摩親信の味

神

水野信正

石川信正の味一物有りて、以て
後、以て信正は、以て

年六月

平家源氏

後蒙平家所可少事所承口册可也
後上橋所渡三月明之六行通了往
来方々石馬寫卷之能通也

六月六日

水野中督

平家源氏

根原水守

平家源氏

山家

道林寺

志道

日蓮宗

後蒙

平家源氏

宋貞

在後以漢書名口人平家源氏
明七口明之六以和段下之段也
之命也平家源氏之能通也

六月六日

平家源氏

平家源氏

平家源氏

如系小

又敵後孫
嚴有後孫
常富後孫
有德後孫
後明後孫
孝恭後孫

印雲系

印成之用

一印統番加羅

孫八枚

如系小抄之方

古德後孫

文昭後孫

有章後孫

博信後孫

印雲系

印成之用

一印統番加羅

孫八枚

石通堂度回系仕出之

千

山綱字派

千六月以心切紙白朱

系林孫為

系敵小末

魏可年所天孫列為

天在系

魏能守系末

夫清信系

石之是年分派各系如系力之
P以另明九日私方上以可派之
後以各系以依仕友系厚以

六月以

本中月以... 宗德... 宗德... 宗德...

魏河... 宗德...

魏河... 宗德...

魏河... 宗德...

宗德... 宗德... 宗德...

宗德... 宗德... 宗德...

宗德...

宗德... 宗德... 宗德...

宗德...

宗德...

宗德...

宗德... 宗德... 宗德...

宗德...

宗德... 宗德... 宗德...

宗德...

宗德... 宗德... 宗德...

宗德...

宗德... 宗德... 宗德...

宗德...

宗德... 宗德... 宗德...

宗德...

千六月十日

根原純重

三浦重房

大佐院

後信

右取違の儀は成りし事明十四日

取違所は、この日方と名前の記後

に在り候は候

六月十日

千六月十日

根原和泉

水師少使

大佐院

上列轉送合用村

百姓

正保

右取違の儀は成りし事明十四日

取違所は、この日方と名前の記後

に在り候は候

六月十日

平家行年記

平家行年記

中平記の味を潤は 天 吾川保十郎為
系定の親政の 長 和子と名未定
長平の古一為の中 和子と名未定
吾川保十郎と和子と名未定
吾川保十郎と和子と名未定
吾川保十郎と和子と名未定

六月

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

吾川保十郎

六月

吾川保十郎

平水月十日 文古抄紙

和歌集の及

和歌集の及

乙未月 終極の事

懐信屋作の中回行忘山原本一山張
公之云外并

即兼訪出高日山所達共之千之回
即急之山振有之山別紙 給書面之
通山所達 信之山所達 信之山所達

平水月

陰日向一併紙之方之方之

平水月十日 文古抄紙

和歌集の及

信之屋候 和歌集の及 然り 多味味川在
之候し方之山 極之

即兼訪出高日山所達共之千之回
即急之山振有之山別紙 給書面之
通山所達 信之山所達 信之山所達

書面信之屋候 和歌集の及 然り 多味味川在
之候し方之山 極之

年六月七日 水野子使下 謹啟

六月

六月廿七日 謹啟

御印方未だ凡々之と、石山殿書之

方々之候申知い事一知り

申り下

年六月七日 謹啟

水野子使下

水野子使下

江守平左衛門

相州守屋殿同封

曹洞宗

定二万守

石山殿書之候申知い事一知り

申り下

年六月七日 謹啟

水野子使下

水野子使下

御印方未だ凡々之と、石山殿書之

方々之候申知い事一知り

申り下

積年

年二十九年十一月廿五日 川口 後中 後中 後中 後中 後中

和泉屋

和泉屋

和泉屋 山内 千代 第 七 十 七 号
一 号 年 十 二 月 廿 日 卸 下 及 取 扱 之 積
方 々 又 戸 候 而 取 扱 及 取 扱 積

年二十九年十一月廿五日 川口 後中 後中 後中 後中 後中

寺社

和泉屋

和泉屋 山内 千代 第 七 十 七 号
一 号 年 十 二 月 廿 日 卸 下 及 取 扱 之 積
方 々 又 戸 候 而 取 扱 及 取 扱 積

和泉屋 山内 千代 第 七 十 七 号
一 号 年 十 二 月 廿 日 卸 下 及 取 扱 之 積
方 々 又 戸 候 而 取 扱 及 取 扱 積

年二十九年十一月廿五日

六月廿七日

初十日 十日 八日
御食出仕番

九日
澤光院

十日
香瑞院

香瑞院
香瑞院
香瑞院
香瑞院
香瑞院

右高平年 御食出仕番

菅王院
惠忠院

六月

右高平年 御食出仕番

平吉乃 御食出仕番

山王
七月九日

石上院

山王
八月九日

石上院
石上院

藤下

和泉

此系和泉正月及知下 御食出仕番

平野

平野

服部

服部

一 後者平社方之儀... 一 開帳... 亦... 之...

平野

七月

服部

平野

平野

平野

平野

平野

野田

甲州

平野

平野

口形安竹村
條保宗

能昌寺

中村の夏代名宗

口形有徳村

曹田宗

法皇院

石としての九時味節ありて山に
依りて服を造りては

千七月

千七月の文台抄

昭平和宗の友

水野宗俊

栗林宗之為代友所

和列中院殿上平井村

條保宗

大徳寺流

尾車寺

疎首社

石としての法信用と名志能いと

其人分るるを述作村は平治と

兼中意之志より和列中院殿上平井

と日原より一和列中院殿上平井

若菜乃以の始末を傳へて十日

通塞

石を森宗宗乃の吐味法より法相あり

之例ありしを和列中院殿上平井

宗宗乃より後いして和列中院殿上平井

好く後と和列中院殿上平井

千七月

手七月八日下之文右抄紙

伊予和泉守之友

水野長徳

千田誠吉

野良河内守之友

伊予守也

日光寺大明神

力持人

保尔 長

石...の...
山...
手七月

手七月...
望...
...

寛

全地院

護持院

石...
...

全地院
信務院控務部
石下院大与所別系之令在在也

年七月九日石林任在為之令在在也

石林任在為

電小印物系未

日蓮宗

茶平

印通寺

在在印通寺之令在在也
九月時新方之令在在也
印通寺之令在在也

年七月

年七月九日石林任在為之令在在也

石林任在為

小田切上修了

信務院控務部

信務院控務部

天台宗

全地院

信務院控務部

志之亦覚る事
通由何所及
何為長壽院本
實光院

石室の内に
五葉の松あり
其の下の
石に刻あり
い何所及
依り

七月九日

牛七月九日

石室の内に
依り

小田切

知恩院末

長田町

成覚寺

石室の内に
五葉の松あり
其の下の
石に刻あり
い何所及
依り

七月九日

牛七月九日

石室の内に
依り

中田切

東川町

長田町

成覚寺

石室の内に
五葉の松あり
其の下の
石に刻あり
い何所及
依り

七月九日

手付九月十日

以手和歌友

小田初太郎

抄と香山

系純

十馬

宝珠流

披玄

石ころのたれお年頃

九月九日時秋

七月九日

手付九月十日

以手和歌友

小田初太郎

物込

御宗大寺

丹次

石ころのたれお年頃

寺師師任仕度い
七り九二

手七り九二の程存此の事分切候由申

根存此等

筆記
不形寺に於て解任候

世別

長連川柳下

長家承旨

不形寺に於て解任候事
申上候所より御書付之由候
事候に候仕度候

七り九二

手七り九二の程存此の事分切候由申

不形寺

不形寺に於て解任候

長家承旨

長家承旨

長家承旨

長家承旨

長家承旨

長家承旨に於て解任候事
申上候所より御書付之由候
事候に候仕度候

七り九二

平定九年九月文古抄御

平定九年九月

去詔中條

後系和光院後月後通中上人之上化
刻新之平与度。新平也。以友好
以包安。古新以書向。新平相友。以
少平以。月。在。情。不。而。中。也。古。中。平。是
此。長。文。之。節。知。法。是。新。平。以。陽。後。亦。中
係。而。中。平。中。也。然。在。法。是。文。在。法。係
而。安。新。之。法。新。人。上。新。平。也。係。中。平。是
多。新。平。相。友。在。情。不。而。中。也。古。中。平。是
以。平。以。年。出。紀。之。平。也。及。平。也。以。係
新。平。也。係。中。平。是

平七月

平定九年九月文古抄御

平八月

平定九年九月

幸七日九月十日...

形手紙の友

小田切の友

日蓮宗

海蔵新寺可

印立寺

存し其の五年に依りて其の唯唯の
和の法新の良の...
信度

七月九日

幸七日九月十日...

田畑村

無業了未

新成志宗

新成村

洋光寺

福成

毛家下

馬橋寺

存し其の五年に依りて其の唯唯の
和の法新の良の...
信度

七月九日

[Faint handwritten text]

辛卯二月五日 卯部色石系及下以多紙書朱川送主

三林保左衛門

輝宗

市ヶ谷

月御守

経信守人

川系守

法外守

石上源俊正左衛門尉九将
私方二江中依多作俊以社以依
信友守左衛門尉

辛卯二月五日

辛卯二月五日 卯部色石系

三北
杉本和重左衛門

小田切右衛門

後守守地中

今全別院

保川後白代地所

志之示

寛正寺文記

通地町新屋

住持新屋町

長壽院事

宝光院

石上寺の在りて年々浸食せしが由
甲四時新屋新屋にて修葺せしむ
作後其片を住持に

八月二日

本寺より之日交在り候

本寺住持

本寺住持

米念母儀

野村千景

曹洞宗

長壽院

専中

石上寺の在りて年々浸食せしが由
甲四時新屋新屋にて修葺せしむ

八月二日

本寺より之日交在り候

本寺住持

本寺住持

岩川寺

住持

羽尾流

依後

良善流

印々竹町

細川府家

口流

依後

系性流

右ノ一ノハハ古年ノ後ナリ
惟之曰大正時物之方ハ
之節ハノ作後正年ハノ
以之

ハリテ

平内ノ理在社分法有改ハノ中替在ハ長之不

服板中替補次
以本和家
以本七系危次
有島氏海修次
根原能為子

通ノ至修者由和乃成ハノ各依
少然至修少中念在席ハ者其以
人別科書一与中一ノ事也

以り甲

根原能為子

石室の石の五平の侯方...
六月廿四日

平比月...
六月廿四日

平比月...
六月廿四日

即系尔北

译云宗

生食大藏与服

中落...
元石之

元石之

善之居

石室の石の五平の侯方...
六月廿四日

石室の石の五平の侯方...
六月廿四日

平比月

平比月...
六月廿四日

平比月...
六月廿四日

即系尔北

译云宗

生食大藏与服

中落...
元石之

元石之

石室の石の五平の侯方...
六月廿四日

作廢書院の法交を存せしむ
八月

年八月又一日於評定所從留廢書院存

而九月 卯辰年三月廿九日

作の儀另案の女本日迄、在り敬事書
上布令々候業為致度候事

八月廿一日

年九月廿一日
若紙を呈す

八月

宮内院
御
云

右のとこの小田知左衛門守年候事
方口候人若原明之九竹石出沒
所々下口を以

九月

八月廿二日
御
云

元
以年和事友

水行と後子

以年和事友

去列群島和事友十分可

和山和後

和山和後

和山和後

右よりの上の味味筋方より
後より後達はははは

年九月

年九月刊の以年和事友

元
以年和事友

小田和事友

以年和事友

宝珠院和事友

以年和事友

右より右年和事友
人より和事友
和事友

九月

年九月七日 石川石上院 住持 宗元

招年石上院 友

之運 寺内 住持 宗元

即食 竹林 月 酒 多 多 集 不 有 成
秋 枕 乃 年 以 年 又 山 衣 酒 多 宗 元
石 滅 以 乃 石 經 枕 在 止 乃 依 宗 元
友 乃 須 石 經 上 乃 上 乃 供 所 宗 元
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

八月 宗元 住持 宗元

年九月七日 石川石上院 住持 宗元

年九月七日 石川石上院 住持 宗元

寺社奉引元 小堂住持 宗元

住持 宗元

住持 宗元

之 宗元

石小堂住持 入 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

月告 招年 小堂 住持 宗元

年九月七日 小堂住持 宗元

年九月十日 後取抄

松平永保

書末伊勢

山王神人

山田重虎

石ころの瑞男 子孫に承継すべし 汝等後代に
有し 是を神代 尸骨を重虎に引渡
す 是に尸骨の皮を脱ぎ 是より 四十一日
九月十日 物名を 石王 可成る 是より
之を 神代 後代に承継すべし 汝等
以て

九月十日

石王神代 尸骨の皮を脱ぎ 是より 四十一日

年九月十日 以初代 玉集

根原托家

天吉宗

年世行 之守

輪島子 名代

明輝房

石王神代 尸骨の皮を脱ぎ 是より 四十一日
九月十日 物名を 石王 可成る 是より
之を 神代 後代に承継すべし 汝等
以て

九月十日

年九月三日... 江戸... 送朱

手紙... 江戸... 送朱

先達... 江戸... 送朱

江戸... 江戸... 送朱

九月

年九月... 江戸... 送朱

江戸... 江戸... 送朱

江戸

江戸... 江戸... 送朱

江戸

江戸... 江戸... 送朱

九月

辛卯月十日切候御朱

根原孫右衛門

是

五郎守地中

侍史院

信官院

孝壽院

吟室院

忠存院

天古宗

尾藤山末

四谷南守町

本樂寺

石中守候以新御方唯中守口將
初出候下、之御方合之御方合
渡上御方合候御方合

九月十二日

本年九月十二日切紙而朱

杉年和泉友

小田切石佐子

印巻平北

中保正末長歌

吉丸伴友

尾秋石見

石見者上杉年一候其時より其時を
印巻着治丹和山信下上と申す
P. 5. 印巻後其時信佐子

午九月

本年九月十二日切紙而朱

杉年和泉友

小田切石佐子

後巻平北中

平務院

石見上杉年一候其時より其時を
印巻着治丹和山信下上と申す
P. 5. 印巻後其時信佐子

九月十二日

平九月廿七日 林任鳥 以切成 未

是物 守山月

曉景 卷

半 謝

石者相年以後 以君の事 唯十以
世時口 凡人 實原 彩色 以 凡 可 以 成
以 後 亦 以 依 依 成 以

九月廿七日

小田 物 不 能 言

甲卯 牙 延 山

日 蓮 宗

久 延 寺 福 院

是 人

石 之 下 の 石 年 後 以 守 山 月 唯
十九日 九月 廿七日 和 山 法 師 不 能 言 一 以 成 以 守 山 月
石 作 師 以 依 依 成 以

九月十八日

石 之 下 の 石 年 後 以 守 山 月 唯 十九日 九月 廿七日 和 山 法 師 不 能 言 一 以 成 以 守 山 月 石 作 師 以 依 依 成 以

年九月十九日切紙宛末

根原托老

東殿山末

四谷小寺町

天在宗

延壽院

石相年、改以在、乃、明、其、日、四、竹、新、
由、後、所、知、之、乃、其、心、分、之、知、ん、乃、後、
以、能、乃、根、在、殿、山

九月十九日

年九月十九日宛末、切紙宛末

東殿山末

天在宗

賜込台院末

世之院

後信

石相相、改以在、乃、明、其、日、四、竹、新、
由、後、所、知、之、乃、其、心、分、之、知、ん、乃、後、
以、能、乃、根、在、殿、山

九月十九日

平九月廿二日水野中督之御返状

牙社奉納札

奉納於寺田馬場布衣所之以下
此後人等番取以番方与馬御
上覽之衣

旨同

一 上覽之衣

水野中督

集所

宝泉寺

一 此目付

法隆寺

右集所之供及番取之旨之旨之旨
此目付之旨集所之法隆寺之旨
此目付之旨集所之法隆寺之旨

此目付之旨集所之法隆寺之旨
此目付之旨集所之法隆寺之旨
此目付之旨集所之法隆寺之旨

九月

水野中督

宝泉寺

本九月九日 彦反抄

手社奉^レ行^ル

今^レ之^レ日^レ馬^レ場^ニ分^リ馬^レ湖^ニ也^レ
何^レ向^ク集^ル不^レ定^ル家^々々^々横^レ山^ニ是^レ
尸^レ以^テ又^ニ若^ク及^テ身^ニ在^ル名^レ及^テ加^テ所^レ
法^レ場^ニ手^レ探^ル察^ル依^テ立^テ仰^テ後^ニ下^ル也^レ
物^レ之^レ入^ル抄^レ不^レ列^ル原^レ身^レ終^ル局^ニ及^テ
あ^レ尸^レの^レ傍^ニ以^テ是^レ尸^レの^レ以^テ

九月

蓮^ノ山^ノ村
水^ノ井^ノ中^ノ努

本九月九日 石^ノ系^ノ及^テ石^ノ久^ノ行^テ送^ル朱

昭^ノ和^ノ系^ノ友^ノ 水^ノ野^ノ若^ノ使^ノ子

昭^ノ和^ノ系^ノ之^レ所^レ似^テ分^ル
或^レ州^ノ皆^レ玉^ノ親^ノ蓮^ノ園^ノ村

天^ノ右^ノ系

蓮^ノ花^ノ院

川^ノ橋^ノ年^ノ身^ノ乃^レ成^レ成^レ系^ノ

口^ノ全^ノ以^テ終^ル了^ル也^レ村

口^ノ系

百^ノ藏^ノ寺

口^ノ系

正^ノ藏^ノ院^ニ在^ル信^ニ三^日

道^ノ之^レ系

石^ノ之^レの^レ入^ル吹^レ味^ノ而^レ有^ル々^々心^ノ之^レ尸^レの^レ
傍^ニ々^々心^ノ之^レ是^レ心^ノ之^レ

本九月

手在りたの御生之儀分存

手在りたの御生之儀分存

寺社奉行宛

御返奉行

米價今年未續直上自為多切
米價空後り云 仰上石上自
販米買入等之云々 石上多切
之礼長ハPノ石礼長ハ後受
以竟後所ハPノ石上 百俵方解
以中ハ高ク後所云々 之知一三六
由米下石後ハ在代を云々 高切法
紙在後ハ石米後高切礼長先ハ
後受石米後所ハ石細ハ後所云々
由米下石上ハ石米後高切礼長

石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
有云々 石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
石上ハ高切法云々 石上ハ高切法

手在り

石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
石上ハ高切法云々 石上ハ高切法
石上ハ高切法云々 石上ハ高切法

平九月九日之文古抄解

平九月九日之文古抄解

平九月九日之文古抄解

抄之序

即其原科弗判在亦部等之力村
此等後於陽下石在部等之語在也
此等後於陽下石在部等之語在也
見不乃及外等以限也等也

平九月

平九月九日之文古抄解

平九月九日之文古抄解

平九月九日之文古抄解

平九月九日之文古抄解
平九月九日之文古抄解
平九月九日之文古抄解
平九月九日之文古抄解
平九月九日之文古抄解

九月

年九月廿六日切紙

小田切紙

日蓮宗

仁賢寺

妙法蓮華經

寺田陽中校所

妙泉寺

口人正性

表七

石名ノ属ハ深ク其ノ旨ヲ明カク
私方ニテモ其ノ旨ヲ仰テ其ノ旨
ヲ受テ其ノ旨ヲ以テ

年九月

年九月廿六日切紙
福寺ノ主人

私年和泉寺友

小田切紙

平新

仁賢寺

表七

石名ノ属ハ深ク其ノ旨ヲ明カク
私方ニテモ其ノ旨ヲ仰テ其ノ旨
ヲ受テ其ノ旨ヲ以テ

年九月廿九日

年九月十日 賜書根大日記 下 諸般

暖誠秋迎

御書根

山月戸帳

御書根

山月帳

御書根

山月

石通 山月 山月 山月

年九月十日 賜書根大日記 下 諸般
川送本

賜書根大日記

御書根

山月戸帳

御書根

山月

石通 山月 山月 山月
山月 山月 山月 山月
山月 山月 山月 山月
山月 山月 山月 山月

年十月

平才甲子年... 日六廿...

有馬屋...

任添寺... 中飲... 且大... 叙... 列...

年九月

平才...

有馬屋...

有馬屋...

中...

中...

中...

中...

中...

中...

有... 有... 有...

中...

中...

竹紋附

九月

石之新造併中ノ殿ノ上ノノ家ノ御
事ノ成ニ付少高所ニ有ルノ人ノ名ニ
以テ此ノ方乃見得此ノ事ノ了ルノ事

十月

十月七日 彦右衛門

宿信刻書

和泉友下

有馬巨海傳

御信奉申宿信刻

寺社子灯

喜内通

係具院

山内丹次後人

口所

常照院

山人政 徳元

秋末色

良源院

山内政 徳元

喜内通

天陽院

和文

表門中書

光学院

行法事式
席圖
書付

一冊
一板
一通

新

六百部行法事式

後系院行法事式
十月九日 卯上列 晨報

一 香障流傳多堂

二 香障行傳多堂聲唱先之進列行

次禿讚

次雙發

次行尊作蓋香

次法川葉湯

次四佛命語

次阿比陀經

次回向後唄

次別時念佛開白

次行傳退堂聲唱先之進列行

次流傳退寂

同日 辰中列 讀經

一 香障流傳多堂

二番鐘或亦未嘗

次竹葉所采堂聲唯先之進徑身以隨行

從行

次佛旗

次雙鼓

次竹葉所采香

次供竹格

次伽陀

次竹葉所食手在

次之於好典開經

次大徑上卷前軸

次後軸

次大徑下卷前軸

次後軸

次觀經前軸

次阿修陀經

次四句聲明

從行

次或亦退出

次先修退教

依安院殿御齋祭御法事
護經席圖

凡畧又

印法事中鐘之別限附

卯辰申中鐘之次也

十月九日晨报

壬香鐘

卯上列

卯香鐘

卯上列

卯日讀經

壬香鐘

辰上列

卯香鐘

卯上列

卯日初夜

壬香鐘

辰上列

卯香鐘

卯上列

十日晨报

卯香鐘

卯日讀經

卯香鐘

卯日初夜

卯香鐘

十日讀經供養

卯香鐘

寅上列

卯香鐘

卯上列

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

手書之紙及書紙之類 手之少くし 手紙

任信殿
訂紙附

於此等後在院殿中法住持等 未元寺
一九月日と書大 手紙 訂紙附
此紙 手書之紙及書紙之類

手紙 訂紙附

手書之紙及書紙之類 手之少くし 手紙
手紙 訂紙附

任信殿

手書之紙及書紙之類 手之少くし 手紙
手紙 訂紙附

本寺有今抄解

寺社奉納記

去經中總

上野黒門下地之経巻及在括之月
向介ハ箱番屋之経巻ヲ上野山ノ
持帰ルニ作後出度ノ経巻ニ違フ
此是仁安ノ年ノ右通古経巻也月箱
番屋石所ノ下地ノ経巻也此是

年二月

本寺有今抄解

又卷將茶之者相子也

和名卷下

和名卷下

二月十七日

又卷將茶之者相子也

持茶

茶書

和名坊

林門悦

春井仙氣

二書有持 寺之因願

角抄原書

角河
香東 文彦 子相

伊友宗景

大徳宗後

伊友宗景

伊友英長

伊友宗景

伊友宗景

年二月二十一日

星野族宗

年依ハ期ハ節白月次ニ依テ示詳

之ヲ示

仰候ハ 且至以日限之始子ニ至福ニ至

茲ニ示リテ示候由迄ハ 尚一ノ之候

仁道無リ難ク候也 之候也 尚一ノ之候

以テ一ノ之候可仕候候 以候一ノ之候

年十月

石原房長一ノ之候一ノ之候

手前より切紙未可なり。恐るるは、
紙を以て

常楽堂印

女同人別紙五冊。是は、
別紙。好まざるは、
亦、
治平四年五月、

三月廿一日

手前より切紙未

常楽堂印

別紙。是は、
人別紙七冊。有、
信上、
前、
三月廿一日

三月廿一日

平昔より、初代米の口より、

米を食す

大覚寺の経上人持書、
宗分は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

佛の道、
達羅、
石、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

二月

琴子候

口

百

△

二百

二二

二十一

二二

二十一

四二

四十一

六二

六十一

六二

六十一

七二

七十一

八二

八十一

九二

九十一

石上系度二

年二り九六石系度二

将泰子候

二月十七日

御藏

角切

音車 文房

御前

後

伊友香里

角切

大徳宗桂

三振了家古家一宗之宗収候て家
二家く金三振百振収候世候之玉
八家六家七家八家九家十家
花玉三振家楓家加家大角八家仁家
仁令 為令 五寸玉 孫玉 寸金 花玉 寸玉

櫻仙院

多武家流徒
の書名とす

石口所

石口所

四天王寺

指中兼門前

町屋丸

石口所

大小

寺殿丸

佛列多摩殿

麻信明神

玉川大僧

左陰止

寺田種根神

千回英徳寺

誠念

永年寺

日蓮秋作

里村昌達

石人の所懐天の事年書向く
言ひし事と高年未事は
山初定所合其合方
印後山達方
人教古遠亦
直言言
此方

一 徳正一 宗正一 宗正一

二 若中如後寺ノ善玉ハ人想ノ力
認込方ニハ

三 認直一ノ善玉ハ外西道ノハ

四 天古宗寺社ノ安武家近門茶所
家九四天正守坊中ノ前所ノ所
大小守候人想候ニ丹外道ノハ

五 玉川大僧院文化ニ意ノ込込ニ
作付断絶ノ一ノ善玉

六 認直一ノ善玉ハ外西道ノハ

七 尚田大寺寺ノ善玉ハ人想ノ力ノ認込方ニ

八 認直一ノ善玉ハ外西道ノハ
西道ノハ
年三月
以年和泉寺

年三月ノ文古宗寺社ノ礼相違

寺社ノ礼

和泉寺
川重原洞

和泉寺

一 春之明十一日 聖朝

後月 御事 御氣 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事

三月十日

甲子年十月

聖書 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事

三月十日

甲子年十月

春三月十日 聖朝 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事

神社奉納

奉納 御事 御事

宗旨 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事

三月

御事 御事 御事 御事 御事 御事
御事 御事 御事 御事 御事 御事

三月

御事 御事

三月十日 左大臣 藤原 公 宣

永泉友

昭授中務省

護持院役者

日輪院

月輪院

在物之長く 吟味中 三月末 宣旨 奉
紀 未 宣旨 宣旨

三月

三月十日 左大臣 藤原 公 宣

永泉友

所部 侍 奉

三月十日 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨
三月 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨

三月

三月十日 左大臣 藤原 公 宣

永泉友

所部 侍 奉

三月十日 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨
三月 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨 宣旨

二月十九日交九折作

元泉屋

松本在東

羽州最上

最上寺

日

花藏寺

麻湾大寺

信上寺

日大寺

麻湾至馬

日大寺

東至橋

日大寺

羽生屋人

正月十九日交九折作
年頃出札

二月

二月十九日交九折作

元泉屋

有島在東

二月十九日交九折作
年頃出札

二月

十四日 武日
又猷院

十五日 武日
洪明院

十六日 武日
長昌院

十七日 武日
澤國院

普門院

十八日 武日
藏有院

十九日 武日
藏有院

二十日 武日
藏有院

二十一日 武日
藏有院

二十二日 武日
閑山堂

普昌院
音龍院
涼泉院
明玉院

寶樹院

二十三日 武日
常憲院

二十四日 武日
隨性院

二十五日 武日
香琳院

二十六日 武日
至念院

松林院
養正院
元光院

二十七日 武日
有德院

二十八日 武日
春英院

二十九日 武日
訖明院

三十日 武日
蓮光院

一宗院
常照院
顯性院
終輝院

園珠院
後回院
明輝院
見明院

石部孫郎之院 未未年 出仕割符
少少

三月

覚王院
惠思院

在平十一年九月 伯中友之

文化八年未未年

未未年 奉末在院之文在

寺社平河元

明十日仍到之由之正野中書書長
之方之孫孫平河之書長以之之
之仲後之之之之

二月九日

大目付

未未年 平河元

中條河内子

中條河内子

大友因極了
今川丹後了
御国参了
有馬参了

東に十六日御事止む
力加り候に候
西月廿七

東に廿七日以迄候由東

小林源兵衛

芝野守山月

察之

隆天

石見守中郎年正院就候由死

三月元日候月後、
十三日心時
以候候交り候に
西月廿七

東に廿七日
以迄候由東

後日不候事候に

杉本和泉守

山形守

東に十七日御事止む
即社系参り候事
明後十日御事止む
九月一候候に候

高上 作後 市 依 結 交 以 順 以 是
P. 11 以上

正月 廿二

西 柳 下 院

未 正 月 廿 九 以 切 代 為 申

西 柳 下 院

傳 云 未

德 川 英 君 年 幼 中

不 幸 流 亡 仕

忠 上 藩

有 者 者 年 幼 以 是 故 年 以 廿 六 日
四 時 召 見 人 臣 依 依 於 方 上 一 時 出 以 依

作 後 以 是 依 依 仕 交 以 順 以 是

正 月 廿 九

西 柳 下 院

西 柳 下 院

何 氏 書 由 今 之 進 退 仕 以 是

正 月 廿 九

未 正 月 廿 六

西 柳 下 院

西 柳 下 院

西 柳 下 院

西 柳 下 院

不 敵 後 依

不 敵 後 依

不 敵 後 依

即 其 之 用

有德後孫
德明後孫
恭恭後孫

一 所統 香加屋

在後

中川氏之方

古德後孫

大昭後孫

有章後孫

德信後孫

即景命所用

在後

所統 香加屋

中川

中川氏之方

未定... 文書... 中川氏之方

中川氏之方

中川氏之方

中川氏之方... 德信後孫... 德明後孫... 恭恭後孫... 有章後孫... 大昭後孫... 古德後孫

中川

中川氏之方

皇朝の文苑神品を代筆する所なく
は月移り来たる事少く下りて古書
後を以て

二月

和泉

皇朝の文苑神品を代筆する所なく
は月移り来たる事少く下りて古書
後を以て

書社

皇朝の文苑神品

二月 御公の行到之先

御公の行到之先

二月

二月

二月

未だ

皇朝の文苑神品

御公

二月

皇朝の文苑神品

御公

二月

皇朝の文苑神品

御公

二月

御公

二月

和泉屋敷

二宿

月 八

十七

宿舎
去年七月

伊豆屋敷

七

月 八

十六

宿舎
去年七月

石巻屋敷

二宿

月 八

十九

宿舎
去年七月

尾花屋敷

宿

月 八

二

宿舎
去年七月

石巻屋敷

未詳

尾花屋敷

石巻屋敷

尾花屋敷

石巻屋敷

和泉屋敷

伊豆屋敷

石巻屋敷

尾花屋敷

石巻屋敷

尾花屋敷

石巻屋敷

尾花屋敷

石巻屋敷

未定月日了文の抄紙

手社奉行
中條河月

印書店

印書店

大物之孫 印書店

印書店 印書店

物 印書店

印書店

未定月日了文の抄紙

手社奉行

未定月日了文の抄紙

印書店 印書店

印書店 印書店

印書店

未定月日了

大目付

未定月日了文の抄紙

大目付

白平陽

老矣

春福寺

上院園全院

新義興之宗

光緒五年

口部百回書村

觀音寺

不敬

在... 年... 辰... 春... 福... 寺... 白... 平... 陽...
... 年... 辰... 春... 福... 寺... 白... 平... 陽...
... 年... 辰... 春... 福... 寺... 白... 平... 陽...

未四月

本... 年... 辰... 春... 福... 寺... 白... 平... 陽...

寺社奉行宛

寛政十二年

仰見... 以下

仰見... 以下

仰見... 以下... 仰見... 以下... 仰見... 以下...
仰見... 以下... 仰見... 以下... 仰見... 以下...
仰見... 以下... 仰見... 以下... 仰見... 以下...

仰見... 以下... 仰見... 以下... 仰見... 以下...
仰見... 以下... 仰見... 以下... 仰見... 以下...

仰見... 以下... 仰見... 以下... 仰見... 以下...
仰見... 以下... 仰見... 以下... 仰見... 以下...
仰見... 以下... 仰見... 以下... 仰見... 以下...

心月

寺社奉行宛

頃古所は月日列五上、我名孫子治丹
代深古あり、後以傳く、是下
以之

二月

未正月九日、以初紙、未

昭博大帳

系殿山未

天衣未

後辛年御中

佐藤院

石之相年、以可、在、山、未、唯、九、以、九、竹
物、之、方、人、之、多、可、依、之、以、後、以、在、以、依

仕度書格

二月

未正月九日、以初紙、未

幸社寺の元

唯、九、日、初、紙、之、向、之、是、之、之、在、山、未、
白、書、向、之、也、幸、中、月、以、院、格、之、
另、之、印、後、了、之、也、

二月九日

大目付

未了之件上之件

右件之件上之件

仰見之件上之件

二月二日

未了之件上之件

十月十日

未了之件上之件

石山院院主

石山院院主

石山院院主

常宝院院主

一石山院院主

石山院院主

石山院院主

文字院院主

有德院院主

一石山院院主

石山院院主

石山院院主

石山院院主

石山院院主

石山院院主

石山院院主

石山院院主

未了

石山院院主

石山院院主

未定二月七日之文在抄本

予社子仍免 小田切正傳与

此及依別表 予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免
予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免
予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免
予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免

未二月

未定二月七日之文在抄本

予社子仍免 北田切正傳与

予社子仍免

此及依別表 予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免
予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免
予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免
予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免 予社子仍免

未二月

未定二月七日之文在抄本

予社子仍免 限存社子仍免

予社子仍免 予社子仍免

予社子仍免 予社子仍免

予社子仍免 予社子仍免

年馬

右の如く、年馬、
其の如く、
三月廿九日

年馬

年馬

年馬

年馬

年馬

年馬

年馬

年馬

右の如く、年馬、
其の如く、
三月廿九日

石...の今...年...
相...同...
二...
...

手...
...

和...
...

年...

石...者...
...

此通命新十部中... 謝礼
今更取此... 謝礼
此在戸... 謝礼
在吹上... 謝礼
戸... 謝礼

二月廿九日
三好重隆
松浦信光

未二月廿六日... 文古抄

二月廿九日
松浦信光
三好重隆

惺惺院... 十四日... 長崎... 佐原... 伊豆...

未三月
至心奉行

未三月... 謝礼

二月廿九日
小田切右衛門

後永寺代

弟地小田切

口年

自性院

英海

石室の古年一法...
九時...
四月...

未...
...

石室和泉...
...

...

...

石室...
...

九時...
...

...

未...
...

石室和泉...
...

...

...

石室...
...

未了

年社乃味相叙
吉田源次郎

石不端何冲用三月家身快其舞亦
答書語振女帳其舞其之在答
書之候名其儀成性相結而尋
快美答古語振合快其原可之其
以候其進一不其其表在候其其
其和候其入候其候其其其其
其國其其其其其其其其其其
其者又其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其其

甲子

知廣花仍其
水野中務

以年和其其

程心由便其其其其其其其其

又字中用其其其

性向即其其

不其其其其其其其其其其其

未了

招甫大格

曹門宗

駒込

吾様守合不

孫合名宗

候傍

急報

在之是至事終失能為之京力人戸交
年及有明報四付物之定上之町法
之伴後少所法法交年及有

甲子年

未四月可為後之定上之町法初朱

松平忠房門取上水榭林修復由朱
自西久保新十谷町折木堂庫物
所及之今日所何事亦通唯後六日
任事由朱年

甲子年

後之定上

未四月可為後之定上之町法初朱

松平忠房^上友

小田切之信

按部言為之知所

上流玉夫階級

大野村百姓

年馬

在之是至事終失能為之京力人戸交
年及有明報四付物之定上之町法
之伴後少所法法交年及有

甲子年

未了り六つ白紙の巻

松浦大徳

日蓮宗

系統平國年未

谷部川信

印壽年

五多作

善理

石之尾邊分珍共似為之系乃人、予
以の暇下、四時物、予乃、予乃、予乃
信成、其乃、信成、其乃、信成

甲子六

未了り七つ白紙の巻

松本を存す、川原と、相棟、信成、其乃
西久保、天徳年、未信、永小、信成、其乃
予乃、印亦、亦井、終、其乃、信成、其乃
道橋、其乃、信成、其乃、信成、其乃
中

甲子七

三井山信

未可少後友

松平和泉之友

松平定房院

野田深希以代友

那長場上能琴友村

新義志之友

善定寺

石之山の吐味之師有し少の味を以て
以て此道は仁の道

甲子年

未可少の如條新義志之友

山本行

至利長新義志之友

名之

三井次

百姓忠代

孫長門

次不也

定不也

之能次

比之友

比之友

長海

石之入忠代

其人

石之山の如條新義志之友
善定寺の如條新義志之友
野田深希の如條新義志之友
那長場上の如條新義志之友
新義志の如條新義志之友
善定寺の如條新義志之友

未可少

榊村清河友

一 卯辰戌子老申 山名

上野之友

六月十一日

一 被物着身 山名

井伊之友

一 卯辰戌子老申 山名
卯辰戌子老申 山名

井伊之友
白次早也友

一 今日終後 山名

松平和泉
井伊之友
白次早也友
山名

六月十二日

一 卯辰戌子老申 山名

山名

一 卯辰戌子老申 山名

山名

一 卯辰戌子老申 山名

山名

一 卯辰戌子老申 山名

山名

山名

内命之友
大徳改友

一 初額門外分
一 下樂之友

一 下力
一 下留

一 石下力下留之友
一 心之友
一 下前之友
一 下後之友

一 下前之友
一 下後之友
一 下前之友
一 下後之友

一 下前之友
一 下後之友

一 下前之友
一 下後之友
一 下前之友
一 下後之友
一 下前之友
一 下後之友

一 下前之友
一 下後之友

六月十日

一 下前之友
一 下後之友
一 下前之友
一 下後之友

右通出卷一之五

未二月廿八日

長谷川景隆

此書付札之外、右書多、其旨、向、
内、子、有、其、在、也、

出問者

長谷川景隆

年六月八日

一 持任後孫中屋半之良

一 佛襖

一 雙襖

一 鏡

長谷川景隆
長谷川景隆
長谷川景隆
長谷川景隆

一 伽陀

一 刺笏

一 四合身明

長谷川景隆
長谷川景隆
長谷川景隆

日九日

一 佛襖

一 雙襖

一 鏡

一 伽陀

一 刺笏

一 四合身明

長谷川景隆
長谷川景隆
長谷川景隆
長谷川景隆
長谷川景隆
長谷川景隆
長谷川景隆

日十日

一 佛襖

長谷川景隆

一 雙履 常恩院
 一 鏡 持光院
 一 伽陀 之光院
 一 四句 尊勝院

口十一日

一 四智 尊勝院
 一 雙履 尊勝院
 一 鏡 尊勝院
 一 伽陀 尊勝院
 一 飛毛 尊勝院
 一 餅名 尊勝院
 一 友花 尊勝院
 一 鉢 尊勝院
 一 言佛 尊勝院
 一 四智 尊勝院

口十二日

一 雙履 尊勝院
 一 鏡 尊勝院
 一 伽陀 尊勝院
 一 錫杖 尊勝院
 一 梵唄 尊勝院
 一 友花 尊勝院
 一 鉢 尊勝院
 一 言佛 尊勝院

右相和... 傳... 在... 下... 之... 記...
 又... 以... 紙... 之... 以... 之... 以... 之... 以... 之...
 紙... 之... 以... 之... 以... 之... 以... 之... 以... 之...
 事

未二月十日

住持... 尊勝院

皇太后... 尊勝院

皇太后... 尊勝院

未開の文を以て之を言ふに似たるもの

山岡

長谷川

六月廿二

仰座閣所

入町

石原隊 大塚隊 川下南

石原 色着隊 少隊 山岡

比

胃

山岡 色着隊 少隊 山岡

川下南 大塚隊 石原隊

石原隊 大塚隊 川下南 石原 色着隊 少隊 山岡

未開の文を以て之を言ふに似たるもの

松浦

神田

結

長谷川

自

長谷川

石原 色着隊 少隊 山岡

川下南 大塚隊 石原隊

石原 色着隊 少隊 山岡

四月廿二

未可了了以成文

限存能了

賞祥宗

中胡年信

江福守

石五平一溪少君少男 明子少 四時
秋也 江胡年信 可也 少君 少君 少君
少君 少君 少君 少君

四月廿二

未可了了以成文

こ儿

秋平和采度

秋平三庫氏

不其治海乃成方也

我州極附能川傳村

百姓年也

高山修發

系松院

峯澤

石五平一溪少君少男 明子少 四時
秋也 江胡年信 可也 少君 少君 少君
少君 少君 少君 少君

未正丹

未正丹の文

此丹を以て門之上水榭俾修後出米
三月西久保天法寺に修永少信後友
振上り所候而并修し物屋鋪前
明後十月に修永長通年

胃中

胃中

未正丹の文

正平和泉屋

正平三摩院

千徳小

信順

信利水月部一書村

百姓

利平

口

未正丹

不利直為の儀新恒後四節中代友所
以新恒直利直為の儀入りて其為
可物に合子業取ら能く其子平院小
信不のわく入平中村年々其直
信も為りて目鏡入りて其直
後且未直為の儀し村修人其直
治其物も其直の儀も其直の儀も
後且其直の儀も其直の儀も

打送くとも物と方い、の紙は石居物
翁と打く、の紙書は石居の依と成
今仕はいと

未
四
月

未
四
月

松平和泉と反

永田信隆と

中津國香取郡香取村

香取郡香取村

尾秋石見

香取郡香取村

石居の依物と紙と吹送知方
吹送紙は石居の依と成

一御書紙の名を、の九、香取之日、香取
若し、の依物と紙と吹送知方
石居の依物と紙と吹送知方
吹送紙は石居の依と成

未
四
月

未
四
月

松平和泉と反

松平和泉と反

水野健之助と反

上原正平と反

田原村

新島真之介

未可下下以切何与未

根家托与

新我美在系
德由与山内之吉竹
藤后以与一兵也
祥宗
麻布相持信持持等
福不即及秋又

大总寺
久思寺
大渊寺

石市年一候中在石乃叶九之四时和
山内御上之与由方之与中上之与后是死
以秋仕是也
甲子九月一日

未可下下以切何与未

黄

香地院次
石内相殿
伴各院称
你德院称

至心院
蓮光院
秀琳院

印相殿

公親院

石印相殿

高巖院
後唯院
公親院
宗屋院

印相殿

本印相殿

御産物町上分極保修儀
形公上人三行末古色馬苑
善友

甲子九月

三井山院

本印相殿

松平初水院

中室東印相殿

本印相殿

三井山院

曹川宗

妙嚴寺隱居

附小

石之趣味當有之
以心少可也
此是此心也

未四月

未奇形... 以切... 石之趣味當有之

上

杉本和泉之啟

中山寺藏書

少之紀... 杉本和泉之啟... 中山寺藏書

少之書... 杉本和泉之啟... 中山寺藏書

六月朔

少之書... 杉本和泉之啟... 中山寺藏書

六月

杉本和泉之啟

係但願

中山寺藏書

賞

中入

中山古中島海船

初縁 一柳斎海船

年社身が味酒調紋

任少多免物紙

江初定

五縁 任少多免物紙

石道源延任度方一柳斎海船和

方道相於了の形一色紙

作身身有紙任度方海船

中入

中山古中島海船

未
中入
中山古中島海船

以年和泉殿

中山古中島海船

別紙 山岡名簿中入の書面中山古中島海船

札 中入身有紙任度方海船

進呈 任度方海船任度方海船

任度方海船任度方海船

任度方海船任度方海船

任度方海船任度方海船

任度方海船任度方海船

任度方海船任度方海船

中入

中山古中島海船

不承下以候事自公玉所著之書
之書は月若くは一候し後、中冊の
以と

文化八年四月
去後松尾所

未中子守・文右

松平和泉及
松平左衛門

是等書は我公任公去後松尾所
安下軍所未全符號而年候
若くは候可し候と松尾所
此等書は未全符號而年候
此等書は未全符號而年候

此等書は未全符號而年候
此等書は未全符號而年候
此等書は未全符號而年候
此等書は未全符號而年候
此等書は未全符號而年候

未中月

甲州米倉符號未全符號而年候
此等書は未全符號而年候

去後松尾所

松平代友所
甲州八代松尾利村所

日光印信多々其五祀衆人伴月信外
修家より後相傳方々候有可く
之印信多々候而此院迄所候方々
お以吐味申す可く此院迄在存有
付し印信多々候相傳可く
色々因新く衆人より此院迄
此院迄印信多々候及字の上候
主君印先より此院迄
分候し此院迄印信多々候
此院迄印信多々候
此院迄印信多々候
此院迄印信多々候

未
八月

未
八月

兄弟
兄弟

兄弟
兄弟

日光印信多々其五祀衆人伴月信外
修家より後相傳方々候有可く
之印信多々候而此院迄所候方々
お以吐味申す可く此院迄在存有
付し印信多々候相傳可く
色々因新く衆人より此院迄
此院迄印信多々候及字の上候
主君印先より此院迄
分候し此院迄印信多々候
此院迄印信多々候
此院迄印信多々候
此院迄印信多々候

未
八月

兄弟
兄弟

未
八月

未育五子... 此後... 凡此...

松井十良

五月十日... 松井十良... 此後...

六月

松井十良

六月... 松井十良... 此後...

六月... 松井十良... 此後...

六月

松井十良

六月... 松井十良... 此後...

六月

松井十良

未済... 以切代...

和年和泉...

永田伯彦...

徳子... 上原...

百姓

年島

石... 明年... 年島...

六月九日

未済... 以切代...

元 寺社奉納元

和年

所... 明年... 和年... 永田...

六月九日

水野中務

未介大下之文也

此
寺社行記 岩瀬如實

海地山王法堂社屋根向 景宅義
表向并下角榊也之榊之也凡此修
復有仁王門内上列紙 繪亦由
兼行 是少屋行多中 取建之
石地新 門角 依列 与行 之 也
以依 依 安 依 少 是 依 之 也

未
六月

未介大下之文也

此
寺社行記 岩瀬如實

海地山王法堂社屋根向 景宅義表
門并下角榊也之榊之也凡此修
復有仁王門内上列紙 繪亦由
兼行 是少屋行多中 取建之
石地新 門角 依列 与行 之 也
以依 依 安 依 少 是 依 之 也

未
六月九日

阿部伯平之状
杉平右衛門左衛門
有島江島伯平

未八リウ心切候由案

根原純右

侍云宗

三田豊是河

長杉子綱

赤彦

石相平之状
杉平右衛門左衛門
有島江島伯平

小川中

未八リウ心切候由案

杉平和泉之友

赤彦伯平

一而宗

後宗

唯念寺下化

法瑞

在...の...
人...
長...

八月六日

未八月十日以前紙書

根原肥前守

天台宗

谷中威徳寺

喜阿彌山主人

保胤

赤門五右衛門

友卿

中書右大臣

重光

右大臣一俊
左大臣一俊
惟九日四時和紙書

三つ折紙書

北川

未八月十日以前紙書

根原肥前守

河村重并食針勢

多田経理

公代

多田大学

降云宗

平田四郎

名代

在云

石相違は後世に於て唯十之四時
山経下は、之を以て云ふに如く、
其の法は、法友の

八月廿

未八月廿、以成和未

招承和泉友
招承空摩院

北田和之助茂安宗

甲州巨摩寺

法友村

法友宗

法友寺

俊泡

留竹村

法友宗

法昌寺

法海

上石岡村

曹洞宗

光福寺

祥志

法友村

法友宗

法友寺

法友

石友寺は、法友寺の法友寺に
之の法友寺に、法友寺の法友寺に
法友寺の法友寺に、法友寺の法友寺に

未八月

東... 傷... 川... 送...

元
事社... 元
中條... 月...

勅使
院使

八月十日
系於... 後...

八月六日
... 上...

八月七日
... 着...

石... 通... 元

八月

東... 文...

元
和... 元
北田... 元

上野

役人

持...

役人

侍...

役人

石... 國... 院... 元
... 元
... 元
... 元
... 元

八月十日

朱以月九日交古以十一日言下九日

一七九
寺社奉行宛

二格儀

二格儀より格取

二格儀却人取

二格儀

印書火一五

印書

印書川重尾

坊

山極形坊

二格儀
印書川重尾
坊

印書儀文人取

山極形坊

石山寺此向山行名も格取も之を
山極形坊より取
之を山極形坊より取

山極形坊より取
印書川重尾
坊

二格儀

二格儀

印書川重尾
坊

印書川重尾
坊

八月

水野中務

一六格儀より格取

印書火一五

印書

印書川重尾

坊

一六格儀より格取

印書川重尾

山極形坊

大藏院
修明院
山内親房

山内親房

半書面
山内親房
山内親房

山内親房

八月

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

山内親房

八月

水野中男
初彦氏傳
附系年一節

朱分千丁・文取

寺社千行記

岩殿抄卷三

坊上寺

文昭院祿
山所後之儀傳命之類
Pの如高千舟百四寸忌
中尾事系山日同成之在在の月
少陽所之儀と以衣分石成り候

Pの如高千舟百四寸忌
中尾事系山日同成之在在の月
少陽所之儀と以衣分石成り候

朱八月

朱分千丁・文取

寺社千行記

岩殿抄卷三

坊上寺

文昭院祿
山所後之儀傳命之類
Pの如高千舟百四寸忌
中尾事系山日同成之在在の月
少陽所之儀と以衣分石成り候

今更なる方は候かと思はれ仕
候

未八付

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the name "中條河内守" and the date "未八月二日"）

未八月二日 新居野郎

中條河内守

（Faint bleed-through text, possibly "中條河内守"）

近侍致候者

有友世業

石乃年終より新候と申下候

候

天英侯様 御書居候御事

以候御事候と申下候

所候と申候御事候と申下候

治世代御事候と申下候

此迄申下候

八月

未月九日... 以切候...

根取征意

与月十二日... 律院... 律院... 律院...

未月

皇白... 律院... 律院...

八月

根取征意

未月... 律院...

山岡合

未月... 律院...

未月... 律院... 律院...

後之...
八月九日

未...
八月九日

和泉...

和泉...

八月九日

後...

信...

...
八月九日

...
八月九日

八月九日

...
八月九日

...
八月九日

...
八月九日

...
八月九日

...
八月九日

...
八月九日

...
八月九日

...
八月九日

八月九日

...
八月九日

未八月九日之文在抄所、口九日、若下之礼也

山岡

未中在案

至德院

使者

至德院

使者

石在案山岡

八月九日

至德院

使者

至德院

使者

石在案

未八月九日之文在抄所、口九日、若下之礼也
以切候

至德院

使者

至德院

石在案

至德院

至德院

至德院

至德院

至德院

至德院

至德院

八月

子社奉仍丸

小室宗伊宛
北田豊房宛

开发

初便六條市大田之孫

大敵院孫

藏有院孫

後明院孫

門雲底の末信宛

在麻川分家分置有之信
上野右衛門守格之長御所
仕度以和日取在知深下
至死向善遣石高信
以候

朱八月

山書向一法上野権左衛門
右衛門守格之長御所

凍泉院

松平水泉

九月

朱九月四日切紙和朱

松平水泉

松平水泉

植松子孫宛宛

上信玉夫臨宛

大井村百姓

年島

右之の明石守向
合之の由來

九月

九月

未存中後紀前之文也

事社年仍免

根原托命
永田佐持

抑者若其死此味也相經之候而長
止之積之目而高之思之進之也
立之在之令信之及之候而信之
為之思之及之候而信之

未九月

未九月十日辰時辰及之月運未山之別高津
以美紙古事

事社年仍免

牧野正和

酒地山之表門中候後身通路若及
比候為比月九二日申時辰及之右候
後未塔中申申未信乃辰辰辰辰
之外在路之昔後山而申申申申
唯十申之在路力信辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰
辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰辰

九月十日

十月十日

松平如泉之友

永田信行

以了誠然之仕人地之上送自其體
部之野村百姓年島明十以字信
中什之有是又自之少而集之其時年
居安之由善公之り之不在之り之
少部之在仕仕之

十月十日

石川如泉之友松平如泉

石川如泉之友松平如泉
十月十日

十月十日

松平如泉之友

松平如泉

松平如泉之友松平如泉
十月十日

十月十日

信州高野町特許林種之次第表之序在牛山不知屋住元文

元文九年九月廿一日

信州依之野高野町特許林種以神林種
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文

元文九年九月廿一日
 信州依之野高野町特許林種以神林種
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文
 之序在牛山不知屋住元文

信州依之野高野町

元文九年

九月廿一日

親和

元文九年

九月廿一日

元文九年

九月廿一日

元文九年

元文八年九月廿一日

百林代

依屋乃下

能取

依屋乃下

依屋乃下

存之

依屋乃下

依屋乃下

新佐屋四郎次

中へ来

即得所

松平和泉之次

永田信房

以了紙幣之仕付物之上流士共陽秋
正野村百姓年島唯九日守官了付
以了之方々々々々々々々々々々々々々々々

此書公へしん右の事之を記す
二月一日

石田和泉之次

未去前あり此の事は久しき事なり
口へ言ふ事なり

柳生三徳友

半茶江原房

松平和泉了

三九

松平和泉之次

柳生三徳友

半茶江原房

松平和泉了

野州理科学校に修後出来し物

定山は秋の節候申す次第見分乃能
少秋程野傳言々届と仰所より申
秋は秋候次第候分乃心と云ふ事
多きは秋候次第候分乃心と云ふ事
秋候次第候分乃心と云ふ事
秋候次第候分乃心と云ふ事

未十一月

申書由是利学校の修後申す秋候
候に申す由は利学校の修後申す
申書由是利学校の修後申す
申書由是利学校の修後申す

二月

松本和泉

松本和泉

松本和泉

以て候分は仕小物と上候間
秋候次第候分乃心と云ふ事
秋候次第候分乃心と云ふ事
秋候次第候分乃心と云ふ事

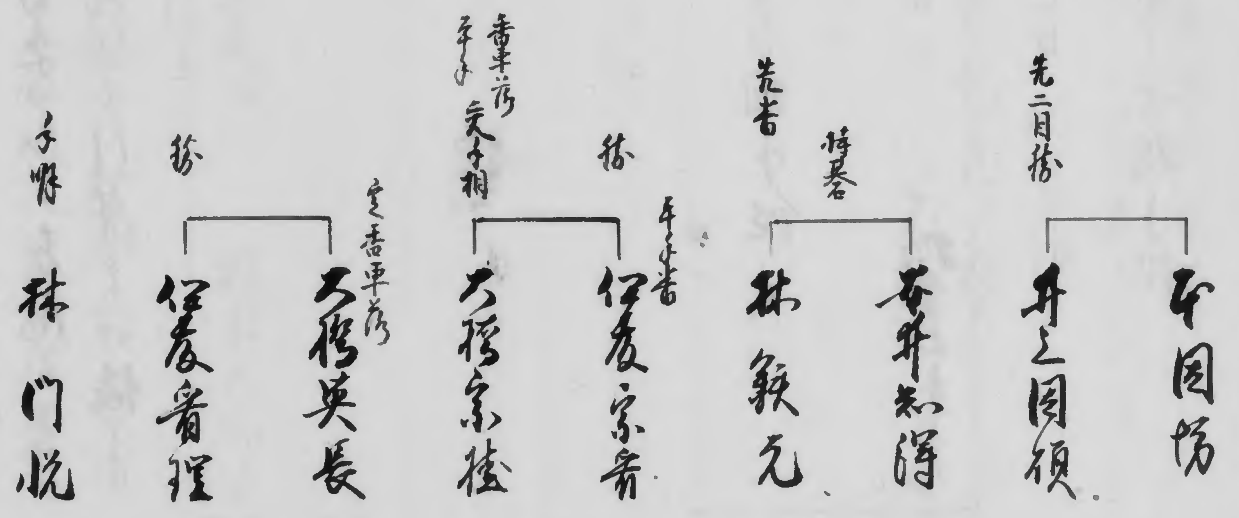
未十一月

松本和泉

申書由是利学校の修後申す
申書由是利学校の修後申す

松本和泉

松本和泉



子將 林 門 悦
 伊友宗翁
 伊友宗翁
 伊友宗翁

東...
 伊友宗翁
 伊友宗翁

伊友宗翁
 伊友宗翁

伊友宗翁
 伊友宗翁
 伊友宗翁
 伊友宗翁

未八月

寺社

天竺宮御五年方強、月東海通和
大井川云龍川、各都川、安土川、美
佐川、中曲川、犀川、相模川、色山、吉
治、月廿八日、月廿九日、信濃、相模、信濃
何重之河、在、信、國、早、別、形、月、廿、八、日、
百石、月、銀、之、積、在、安、土、川、月、廿、八、日、

此答云

一、去年、年、分、内、國、東、部、利、根、川、伊、豆、
川、小、貝、川、卷、忠、川、荒、川、島、川、神、流、川、
等、川、水、多、流、身、計、入、用、を、我、等、中、信、
常、陸、上、野、本、房、上、信、國、に、百、石、月、
銀、積、在、久、々、了、回、役、掛、り、の、答、云、
一、去、り、乙、未、年、分、強、去、年、年、分、の、内、上、野、
本、移、赤、川、大、谷、川、竹、鼻、川、渡、長、瀬、川、
色、山、等、流、身、計、入、用、を、上、野、國、に、百、
石、月、銀、積、在、久、々、了、回、役、掛、り、の、
答、云、

百石、月、銀、積、在、久、々、了、回、役、掛、り、の、
答、云、

一、去、り、乙、未、年、分、強、去、年、年、分、の、内、上、野、
國、保、合、川、関、川、所、賣、野、川、栗、野、川、
飯、田、川、信、濃、川、色、山、等、流、身、計、入、用、を、
我、等、中、信、常、陸、上、野、本、房、上、信、國、に、
百、石、月、銀、積、在、久、々、了、回、役、掛、り、の、
答、云、

不入用令、 上、野、山、本、屋、令、之、志、在、信、之、
以、月、十、方、一、了、後、

上、野、山、本、屋、令、之、志、在、信、之、
以、月、十、方、一、了、後、
相、模、寺、社、於、是、而、強、常、陸、上、野、國、役、令、
打、之、上、野、等、之、為、未、十、月、中、之、以、代、友、
地、田、仙、九、師、母、合、名、月、方、上、野、文、水、水、
日、十、月、每、一、段、在、安、土、川、月、廿、八、日、
可、相、模、川、
事、

一、安、土、川、方、之、以、寺、社、於、是、而、強、常、陸、上、野、
國、役、令、打、之、上、野、等、之、為、未、十、月、中、之、
以、代、友、地、田、仙、九、師、母、合、名、月、方、上、野、
文、水、水、日、十、月、每、一、段、在、安、土、川、月、
廿、八、日、可、相、模、川、
事、

在五人之内可古酒の事

一 何れも此の事は白濁部にて付く事
此れは古酒の事は白濁部にて付く事
然るに本社の何れも列紙業文の事
此れは古酒の事は白濁部にて付く事
多分是又業文非書の通書不代
信託は古酒の事は白濁部にて付く事
而定所は古酒の事は白濁部にて付く事

東
十月

即物定所

覚

何れ何れ
何れ何れ
一言何れ

他何れも此の事

何れ何れ
何れ何れ

一言何れ

他何れ

何れ何れ
何れ何れ

多合何れ

一言何れ何れ

一言何れ

他何れ何れ
何れ何れ
五卷六十月

外

何れ何れ

何れ何れ

一言何れ

何れ何れ
何れ何れ

何れ何れ

何れ何れ

一言何れ

何れ何れ
何れ何れ

何れ何れ多合何れ

一言何れ何れ

一言何れ

他何れ何れ

惣旨合何經
付三役帳何經
付定何經

但
非
包

在何年何節何月何日
何國何役何書何通何何村
何年何社何何何何何何
何何何何何何何何何何

本年

何院

仲助定新

未
年
何
文
何

松平

何
何
何

何州長官上町西藏守
何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何
何何何何何何何何何何

未
十
月

未
年
何
何
何
何

何社

何
何
何
何
何
何
何
何

天文方

三橋徳長

伊藤初孫

口下傳書方

三人

口下役

三人

口下傳書

三人

在りて及測量為り用 書月の中
江戸の三列紙道形書に色圖
相見測量に及りて在りて
あり

一 石身地所 是等之 海海之 役之 其
新之 役順之 形之 中一 是等之
候事也 且測量道矣 為り入止者
より 候事也 可なり 候事也
候事也 可なり 候事也

一 且國之 江戸 額曆 所之 用状 是
等之 候事 也 可なり 候事 也
且相見 且江戸 表之 且國 之 且用
状事 也 可なり 候事 也
候人 中一 可なり 候事 也
以之 候事 也 可なり 候事 也
之 且相見 候事 也 可なり 候事 也
在り 候事 也 可なり 候事 也
候事 也 可なり 候事 也
候事 也 可なり 候事 也
候事 也 可なり 候事 也

未十一月

世庫山世世指列之十月子懸山

他他名津山小川依依名同迎

依伯在一日市と剛量より

一 板州板路と他列生懸五の量

出石丹州福知山後部山家空部

釜山山山山山山山山山山山山

山山山山山

一 山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

十月

石山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

十月

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山

石川

未三月初一日
石川

三月初一日
竹尾

石川

竹尾

中書
竹尾

未三月初一日

石川

竹尾

石川
竹尾

未三月初一日

未王百九の石室及石文の河邊集

五七
寺社行記
牧田大和守

酒地山王法堂社に詣りて石室を窺ふ
川井平角碑石三冊に記す山修後
甬道仁王門外に山修行多末石建
方々石室山修後山修行石室
布衣末石碑石地新刻与社之
川邊に石法系石道刻与社
社殿社法系石法系石法系
未王碑石室石室石室
Pの傍に石法系石法系

未三月

未王百九の石室

五七
和歌集
石室石室

未三月年終石室石室
出入石室石室石室
石室石室石室石室

三月



文化八年
六月十七日
於
迎候

和國坊
足前掛并上同領

文化八年
六月十七日
於

迎候

谷井和輝

持茶

足番 祐欽元

白却勝

盤面略

盤面略

口	〇	百
△	〇	二百
二	〇	三百
三	〇	四百
四	〇	五百
五	〇	六百
六	〇	七百
七	〇	八百
八	〇	九百
九	〇	一千

持茶子續

二月十七日

孫 仁俊 宗音

迎候

平子 文子 大橋宗桂

此卷与... 卷之七
... 卷之八
... 卷之九
... 卷之十
... 卷之十一
... 卷之十二

... 卷之十三
... 卷之十四
... 卷之十五
... 卷之十六
... 卷之十七
... 卷之十八

... 卷之十九
... 卷之二十
... 卷之二十一
... 卷之二十二
... 卷之二十三
... 卷之二十四

... 卷之二十五
... 卷之二十六
... 卷之二十七
... 卷之二十八
... 卷之二十九
... 卷之三十

... 卷之三十一
... 卷之三十二
... 卷之三十三
... 卷之三十四
... 卷之三十五
... 卷之三十六

... 卷之三十七
... 卷之三十八
... 卷之三十九
... 卷之四十
... 卷之四十一
... 卷之四十二

... 卷之四十三
... 卷之四十四
... 卷之四十五
... 卷之四十六
... 卷之四十七
... 卷之四十八

... 卷之四十九
... 卷之五十
... 卷之五十一
... 卷之五十二
... 卷之五十三
... 卷之五十四

... 卷之五十五
... 卷之五十六
... 卷之五十七
... 卷之五十八
... 卷之五十九
... 卷之六十

... 卷之六十一
... 卷之六十二
... 卷之六十三
... 卷之六十四
... 卷之六十五
... 卷之六十六

... 卷之六十七
... 卷之六十八
... 卷之六十九
... 卷之七十
... 卷之七十一
... 卷之七十二

十日亥時日

大融院

十一日亥時日

後明院

系

十二日

長留院

十三日

淨念院

十四日亥時日

嚴右院

十五日

高嚴院

明輝院

見明院

素珠院

愛成院

普門院

泉龍院

等覺院

十六日

心鏡院

十七日

宗慈院

十八日

開小堂

奇昌院

長龍院

涼泉院

明土院

十九日亥時日

常憲院

二十日

隨性院

二十一日

香琳院

二十二日

至念院

寶怡院

松林院

養壽院

光光院

大日如来
有德院

大日如来
兼

孝慈院

二日
光明院

八日
蓮光院

一宗院

願性院

常照院

修禪院

石部拾部院未中年也此刻其

十二月

覺王院

惠慈院

石部拾部

未三月二十日

松平和采女

有田恆磨子

中尾國香取

香取和采女

尾取石見

香取典格

石部拾部の如くは、紙巻に遺るに、
此月各指し、石部拾部の如く、
此指し、石部拾部の如く、
あり、此曲は、石部拾部の如く、

原印の紙に書かれた文の多くは延喜式に不
ありしもの代に伊友永馬 弟 印字名
の類に在りし物に文石見候に取掛り
申付候中 揚り屋入上等の思召候事不
良印字を言ふ候事ありしに付
良の條別紙代々との言召の紙に
後二及の紙に付候事候に候

未二月

未年洋定物

公事洋定物書付

湘没

中村五郎殿取掛洋定物

未年公事洋定物

惣取六

四書洋定物 月取洋定物

月取 不
月取 今

月取 中

取掛洋定物

未年公事洋定物

惣取二

取九 洋定物 月取洋定物

月取 不
月取 今

月取 中

月取 不

取掛洋定物

未年公事洋定物

惣取一

取八 洋定物 月取洋定物

月取 不
月取 今

四
三張中平紙
四部 中平紙
五 全三本

石素色及山紙許定物

与平年平紙許定

惣敷百拾九

拾五箇許 天飾紙 月紙許定

四 八 中平紙
七 全三本

四 拾四張中平紙

月 拾一 中平紙
三 全三本

石素色及山紙許定物

与平年平紙許定

惣敷百拾四

拾三箇許 天飾紙 月紙許定

月 八 中平紙
五 全三本

四 拾五張中平紙

月 九 中平紙
五 全三本

石素色及山紙許定物

与平年

与平年

惣敷百拾

拾六箇許 天飾紙 月紙許定

月 六 中平紙
五 全三本

四 拾三張中平紙

月 七 中平紙
六 全三本

石素色及山紙許定物

未 三月

皇野原

半高富上居候方持札と掛り
分給布方一と居候以中一在候
自可給候と云人地句一因一後名
以中一候と云と云と云と云と云
及少云候

三月

松平和泉子

